第２回

台東区基本構想策定審議会

小委員会第３グループ

平成３０年１月１５日

台東区役所１０階１００１会議室

台東区企画課

〇出席者	委員	安島　博幸	委員	懸田　豊
（９人）	委員	片山　泰輔	委員	山谷　修作
	委員	本目　さよ	委員	成田　多恵子
	委員	早津　司朗	委員	二木　忠男
	委員	冨士　滋美		

〇欠席者	委員	小田切　満寿雄
（１人）		

〇事務局	企画課長	前田　幹生
	文化振興課長	内田　円
	産業振興課長	菅谷　健治
	産業振興事業団経営支援課長	上野　守代
	環境課長	松原　秀樹
	清掃リサイクル課長	朝倉　義人

（午前１０時００分開会）

１．開会

○事務局

―配布資料及び委員の出席状況の報告―

２．議題

（１）各分野の２０年後の望ましい姿について

＜産業分野について＞

○委員長

それでは本日の議題に入りたいと思います。議題の１は各分野の「20 年後の望ましい姿」についてです。第１回小委員会において事務局から説明がありましたが、第３回小委員会では、各分野の 20 年後の望ましい姿を決定することがゴールとなります。本日は 20 年後の望ましい姿を考える上で、いわばアイデア出しの回になりますので、委員の皆さまのそれぞれがお考えの 20 年後の望ましい姿や、それにつながるキーワードについて、自由にご発言をいただきたいと思います。

それでは今日は分野ごとに意見を伺っていきたいと思います。まず産業分野についてご意見を頂戴したいと思います。今日は、説明事項はないですね。産業分野のところでいかがでしょうか。

○委員

区の抱える課題の⑤に「空き店舗の増加や活力低下が見受けられる」という記載があります。昔浅草で「奥山風景」というのがあり、少しお手伝いさせていただきました。上野や浅草でも、空き店舗をテーマパークのような感じでつくり上げて、例えば台東区の伝統工芸が体験できたり、台東区のものを販売したりするのも良いと思いました。「奥山風景」のときは結構大変だったと思いますが、観光客の方など集まられて、色々な PR ができたと思いますので、それを思い出してそのようなものができると良いと考えました。

○委員長

観光分野などとの連携の話ですね。そのような意味では、例えば私が前回申し上げた問屋街のようなところが観光資源として面白いと思います。谷根千のようなところも、昔は観光地ではありませんでした。以前は寂れた印象しかなかったのですが、今は観光地として人が来過ぎているような状況になっています。

○委員

全体を通して、産業と観光と文化というものの連携を図らなければいけないということ

は、各委員がおっしゃっていることだと思います。ここには記載されていませんけれども、この分野を横断的に連携した姿というものがどのように描けるか分からないですが、必要であろうと思っています。

〇委員

私はどこかの分野ということではなく、20 年後の姿ということで少し考えてきました。一番重要なことは、2020 年に向けて 4,000 万人のインバウンドを迎え、それがある程度持続していくということがまずはあるわけです。そして、台東区というのは東京および日本において、外国人が必ず来る場所になってくるので、20 年後に海外の人たちが日本に来ていて、交流が持続していることが非常に重要です。一見さんが一回見に来て楽しかったということではなく、やはりリピーターとしてずっと来る人たちが定着している状態が重要だと思います。

特に誰が来るかというと、今は東アジアの人たちが非常に多いわけですが、20 年後は、東アジアだけではなく、インドネシアやマレーシア、インドなど、東南アジア、南アジアの人たちが入ってきます。そうすると、宗教的にも生活習慣的にも相当異なる人たちがたくさん入ってきて、そしてその人たちがリピーターとして東京や日本を知る窓口が台東区になってくると思います。ですから、そこの共生社会をきちんとつくっていくために、文化的な環境と物理的な自然環境とがきちんとこのエリアにあって、来た人が「台東区はすごいな」だけではなく、「東京は良いな」、「日本は良いな」と思ってくれる、その持続的関係をつくる拠点が台東区であるという状況をつくらなければいけないと思います。一回来て面白かったといって、写真を撮って SNS に上げるという関係ではなく、継続して来るというところが重要だと思います。

その文化と自然の環境をきちんと支えるためには、台東区にしっかりした産業がなければいけません。一つは伝統的な産業というのが文化の基盤になっているというのはもう再三お話がありましたので、それをきちんと維持していくことが重要だと思います。色々な伝統芸能や色々なそのようなものを支えるのに、きちんとした伝統産業がないと続きません。それがきちんと育っていくということです。

もう一つは、産業のところで今「起業創業」と書いてありますが、既存の業種における起業創業も大事ですが、20 年後ということになると新産業をつくっていくことも必要です。今なかった新しい業種を起業創業していくという視点、あるいは現在の産業、企業がそのようなところに新しく展開していく、そのようなビジネスチャンスがあって、先ほど言った南アジアぐらいまで含めた広域の太平洋地域の人たちがやってきて、台東区に観光に来るだけではなく、ここに来て起業するくらいのそのような窓口、それを受けとめる懐の深さのような環境をつくっていくことが重要だろうと思います。

自然環境として、安全で快適なものをハードとしてつくっていくということと共に、学校教育にきちんとテコ入れをして、太平洋地域の色々な人たちと共生していく、そのとても大

事な拠点がこの台東区なのだということを、義務教育の段階からしっかりと子供たちに伝えていく必要があると思います。その子供たちが 20 年後成人になるわけですから、今日の分野に教育はありませんが、20 年後の台東区の姿を視野に入れた教育をきちんと小学校中学校でやっていく、これを徹底していく必要があるのかと思います。

○委員長

インバウンドのお客はまだこれから増え続けると思います。2020 年が 4,000 万人ですが、2030 年は 6,000 万人と目標が掲げられています。今委員がおっしゃられたように、東アジアから東南アジア、その動きは結構出ています。昨年 2017 年の統計などを見ると、ベトナム、インドネシアが対前年比 30 パーセントの伸びで増えています。その流れはどんどん続いて、20 年後にはインドという話になってくるかという状況があると思います。そのようなことを前提に、繰り返し来ていただいて、そのような人たちに対していろいろアピールできるように、受け入れをソフトの面でも考えていかなければいけないということです。教育のことも今おっしゃっていただきました。非常に大きな視点ですが、その辺が全体を通しての共通認識として大事なのかと思います。

それから、20 年後の望ましい姿というのがかなり前面に出てきているのですが、20 年後の姿をいきなり描くのはなかなか難しいのかと思っています。この辺りは、最終目標は 20 年後ですが、20 年後の望ましい姿を描きつつ、そこに至るそれぞれのときのプロセスとしての何を目指すのかというところも押さえておかないと、何となく夢を語っているだけになってしまうかという感じもします。20 年後の姿ということについても共通の理解を得ておいたほうが良いかと思います。

○委員

今既に人工知能で色々世の中が変わってきています。この間伺った話ですが、今 Wi-Fi を使ってコンビニなど色々なところでビッグデータが分析されて、どこの国の人がどこからどこへ移動してどうしているのか、というようなことが全て分析可能になっているそうです。20 年後というと、人工知能が色々な知恵を生んで、我々が想像もつかないような世界が生まれてくると思います。その反面、前にも私は申し上げましたが、この台東区は伝統、文化、歴史というものがずっと残っています。ですから、人間がすることはそちらのほうかと思います。特殊な分野の方々は、そのようなデータを集めて色々分析されるでしょうが、それはそれとしてとても素晴らしいことなので、我々がそのデータをいただいて考えるということです。やはり守るべきものはしっかりと守っていく、どうすれば守れるのか、というところがとても大切だと思います。ですから、前にも申し上げましたが、お寺や宗教などといったものと観光、文化の融合ということを強く考えていかなければならないと思います。

○委員長

今の台東区を支えている色々な伝統的なものを守っていくということは、とても大切なことだと思っています。ただ、社会が変わっていく中で、どのように革新というものを取り込んでいくのかということが、大きい課題なのかと思っています。20 年後もそのような古いものがどのような役割を果たしていくのかということを考えつつ、将来のあるべき姿を考えていきたいと思います。

○委員

このシートを読んでいると、だんだん企業が増えているような感じにとられますが、東証に参加する企業は年々減ってきているようです。なぜかというと、事業継承がうまくいかないという理由があるようです。このままいくと、多額の税金を取られるからやめてしまおう、ということがまず念頭にあるそうです。この 10 年間いろいろな方の努力で、なるべく税金を取らないようにしよう、事業継承をうまく進めようとしてきましたので、少なくとも 10 年後には事業継承が終わっているほうが良いだろうというのが大方の見方です。

それからもう一つ、台東区は伝統、文化、産業の町だとよくいわれていますが、実際に伝統工芸をつくっている方は、年収が 100 万円であったりするのです。これは中小企業診断士の先生から聞いたのですが、とてもやっていけないので、それ以外にアルバイトをしているそうです。これを何とかできないだろうかというのが我々の本音のところです。

○委員長

伝統工芸品で国の指定を受けているものは幾つあるのでしょうか。

○産業振興課長

国が指定している伝統工芸品は、全体で 200 少しあるのですが、その内の 9 品目が台東区内に集積しています。また、東京都が指定している伝統工芸品も 40 品目あるのですが、その内の 26 品目が台東区内に集積しています。

○委員長

200 品目というのは日本中ですね。都内では 26 のうち 9 ですか。

○産業振興課長

台東区内に集積しているのは 40 のうち 26 です。

○委員長

40 のうち 26 というのはすごいですね。

○委員

マイスターという制度がありますね。私は着物が好きでよく着るのですが、私の仕立てをいつもしてくれているところは大変腕が良くて、生徒さんを一時期は 20 人ぐらい抱えていました。しかし、マイスターを受けて表彰されましたが、全く保障にはつながらないために、台東区で教室を開いているのも、家賃の関係から台東区に住むのも段々と辛くなって、今では北区に引っ越してしまいました。それがマイスターの方たちの現状の一例だと思います。これは何とかして収入面なども守ってあげるというシステムが必要ではないかと思います。

○委員長

全体的な方針なども必要ですが、具体的には何から着手するかというと、例えば着物を着る機会などを増やしていって、浅草などで着てもらうなど、具体的な策をいろいろ考えていくことが必要かと思います。

○委員

それについてはいろいろ策はやっています。浅草の花柳界の催し物で、谷崎潤一郎の『陰翳礼讃（いんえいらいさん)』からヒントを得て、ろうそくの明かりだけでやるお座敷があります。これを外務省が大変興味を持たれて、２月に大使の方がみえられる予定です。それがうまくいけば、外国からの方も興味を持って、お座敷という日本の文化に触れる機会となります。とにかく着物を日常仕事として着ている人たちがどれだけ皆さんに見てもらえるか、認知してもらえるかがとても大事なことだと思って、今一生懸命やっています。

○委員長

それは素晴らしい試みですね。文化と観光と産業の三つがつながっていて、しかも非常にレベルの高いところでやられていて大変良いと思います。

○委員

今の問題に関連して発言させていただきたいのですが、伝統工芸が今日本中で経営が非常に苦しくなって、継承困難というところは共通だと思います。それを何とかきちんと維持発展させなければいけないのですが、経済産業省のフレームはあくまでも営利企業としてどう生き延びさせていくか、というところにとどまっています。これは限界があると思います。工芸のほうはそうなのですが、伝統芸能では、歌舞伎は今でも株式会社でやっていますけれども、文楽や能楽などは公益法人化しています。方向としては伝統的な産業を残すというのは、公益的な活動として非営利法人の形態を取っていくことを考えていく必要があると思います。産業として事業収入だけで成り立たせていく方向の努力ももちろん必要ですが、それを維持発展させていくことは、日本の国際交流にも非常に寄与することで、日本の

ある意味総合的な安全保障にも貢献するくらい重要なものです。ですので、公的資金をきちんと入れて、非営利組織として運営していくということが必要です。例えば東京であれば、ホテル税を取るようになっています。東京の地域の魅力を付けるためには使えるのですが、営利企業にお金を出すのはなかなかしにくいです。ですから、例えば公益財団法人や公益社団法人の工芸振興の組織をつくって、そこに公的資金を入れながら、そのような実際に工芸に従事しているような人たちが収入を得ながらやれるような、非営利の公益組織のかたちでの工芸振興の維持のようなモデルをつくっていくことは、今後 20 年ぐらいの視野でいくと必要だと思います。公益法人制度を活用してそのような産業はやっていく必要があると思います。先ほど言ったとおり伝統芸能の世界はそちらに移行しています。日本相撲協会も公益財団法人です。工芸がなまじビジネスになっていた時期が長かったので、どうしても経済産業省は産業振興のフレームの中で維持しようとして手放さないのですが、ここはやはり総合的に考えると、公益法人化を進めて、公的資金も入れながら発展させていくのが良いのではないかと思います。そうしないと、若い人もそのような分野に就職しようと思いませんから、そこは大事かと思います。

○委員長

台東区の文化の大事な部分を担っていく伝統工芸産業のようなものは、やはり自立はなかなか難しいのではないかという認識に立てば、文化や観光の面でその産業を守るという視点から何か新しい動きがつくれるのかと思います。東京芸術大学などにはそのような伝統芸能に関わる先生方や学科があるのですか。

○委員

前学長は鍛金の方です。

○委員長

そのような大学との連携なども、伝統産業だけではありませんが、そのような方策もあるのかと思います。

○委員

先ほどからお話も出ているように、20 年後というと、ICT 技術はもう想像できないぐらいに発展しているのではないかと思います。グローバル化も進み、しかも多様化も進んでいくということで、未知のものに対応できる能力を子供たちの教育だけではなく、今働いている大人たちが、臨機応変な能力を皆が持っていなければ難しいかと思います。定年が今後伸びるということもあって、高齢になっても働ける人は働くというかたちになっていくのかと思っています。全ての人が働いて、生きがいを持つ、ここには当てはまらないのかもしれませんが、障害者の方でも、今でも高付加価値を付けて、例えば「恋する豚」や「おいしい

ハム」などをつくって高付加価値の商品を売ることで、平均的な賃金よりも上の賃金をもらえるような状況もあるのはご承知のことだと思います。それが障害者施策ということではなく、高付加価値のものを売ってお金を回していく、というようなところをしっかりと回していかなければいけないと思います。新しい時代には新しい産業が出てくるので、創業支援、チャレンジして失敗しても再度やり直せるというような社会の仕組み、これは台東区だけでつくれるものではありませんが、そのようなこともしていかなければいけないと思います。

また、今言ったことと若干矛盾するのですが、産業に対して区がどこまで補助を出すのか、お金を出すのか、口を出すのかというところは、考えなければいけないと思います。臨機応変にきちんと対応できる能力を身に付けてもらわなければ困りますので、教育は必要です。しかし、誘導するためにどこまでお金を出すのか、先ほど伝統工芸品に補助を出すという話がありましたが、区がどこまで現実的に出せるのかというところもあると思います。20 年後人口構成が変わって、先ほど言ったように高齢者の方も障害者の方も働いていただいて、皆さんが納税者になっていただければ、もしかすると税金はたくさん入ってくるのかもしれません。一方で福祉でも使うお金はとても多くなっていると思います。予算のところまで考えなくても良いのかもしれませんが、文化・伝統・芸術のところの、また産業のところでも、どこまで区としてフォローしていくのか、そこは見極めていかないといけません。それは国の在り方というところにも関わってくると思います。

それからもう一つ、社会的起業と呼ばれる、社会の課題に対応する会社を起業することで、営利活動をしながら改善していくことが、NPO でも株式会社でも徐々に出てきています。若い世代の憧れの職業のようになっていたりもします。そちらはやり方を支援していくことで、行政需要をカバーすることができるかと思います。例えば病児保育ですが、多様化していく社会のニーズに対して行政が大量にお金をつぎ込まなければいけないところを保険の仕組みを使って皆が使えるサービスを提供している NPO が出てきています。色々課題に対して儲けを出しながら、その資金を次の事業展開に回した上で、きちんと社会の課題を解決している方々も少しずつですが増えてきています。そこもしっかりサポートをしていくことが必要かと思います。

これも教育になってしまうのかもしれませんが、今後 ICT 技術が発展していく上で、今は週休２日制ですが、もしかすると週休５日制になっているかもしれません。基本は遊んで暮らしていて、ロボットや ICT が働いてくれて、私たち人間は日常遊んでいる中からこのようなサービスはどうだろうかと思いつくような社会になっている可能性もあると思います。どのような社会を目指したいかにもよりますが、そのようなときにアイデアを生み出せる人材、最低限のプログラミング技術は人間にも必要だと考えます。

〇委員長

ICT がどこまで伸びるのか分かりませんが、基本的には教育なのでしょうか。子供や大人

が、基礎的な学力、自分で考えて対応できる力をもつということは国全体の問題です。起業するときの仕組みづくりなどのことが必要だということです。新しいことを起こすというようなことの支援がもっとあっても良いのかと思いました。

今日は全部で４つやらなければいけませんので、先に進んでまた何かあれば戻りたいと思います。

＜観光分野について＞

〇委員長

それでは、観光についていかがでしょうか。

〇委員

台東区として将来観光客について、どれぐらいを想定して、それに合う様々なサービスやインフラの必要性を検討するというのは、ビジョンの中でなされているのでしょうか。

〇文化振興課長

現在の台東区の観光施策としては、あえて人数的な、数値的なものは定めていません。逆に量よりは質への転換というようなことで、目標値はビジョンで明確な数値は定めていない状態です。

〇委員

無計画に観光客が増えて、それが負の効果をもたらすという場合もあります。このような政策を論じるときには、放っておけば５、６倍になるけれども、それが果たして台東区に良いのか、観光にとってプラスになるのか、その辺を明確にしていくと良いと思います。今までは増えれば良いと思っていたけれども、量から質への転換ということがありますので、減らす、制限するということも重要になると思います。特にこれから 10 年間はそのようなことがとても切実な問題になってくるのではないかと思います。それをどのような言葉に変えるか分かりませんが、検討すべきだと思います。

〇委員

浅草もそうですが、現在は乱雑に多国籍の人が入り乱れていて、交通整理ができない状況です。外国人の観光客が台東区に求めているものをはっきりさせて、トータルコーディネートしていかないといけません。先ほど奥山風景の話もありましたが、観光産業という中で、歴史的な観光資源を活用し、台東区の魅力をしっかり出していく必要があります。多くの方がどんどん来られるのは良いのですが、観光客が何を求めているのかもう一度正確に抽出しておかないといけないと思います。上野や浅草は、賑わいを見たいというのが圧倒的で、浅草橋や谷中は静寂さと建物の風情を味わうというものです。オーストラリアの人たちがよく泊まっていって、日本の生活感のある文化を味わうという非常に良い場所です。持ち味を全部持っています。台東区が 20 年後に目指すものがどのようなものか、トータルコーディネートされたコンセプトをしっかり持って主張していったほうが良いと思います。

それから観光防災という点で、不安な点がたくさんあるので、やみくもに人数が増えて良いのかというのは、観光連盟としては大いに考えます。

〇委員

簡単に体験できるのは、暮れから正月にかけてのアメ横であり仲見世です。これが、観光客が４、５倍に増えた状態です。何が起きているかというと、仲見世では、お正月三が日は、バリケードを張って一方通行になってしまいます。そうなると、お参りに行く人は、最後尾が駒形橋辺りになって、そこから観音様まで延々と２時間３時間かけて歩いていくわけです。買い物は皆さん大抵帰りにするものですから、売り上げは激減します。それが今から４、５倍の人たちがどっとこの狭い台東区を訪れたときの状況になると思います。無制限にやっているとこうなります。ですから、そこの整理は必要になります。その人たちは、何を求めて来るかというと、人混みを求めて来ます。ですから、「賑やかで良かった」、「混んでいて嫌だった」、両方を持って帰ります。それが今から４、５倍の人数が訪れたときの状況になると思います。

〇委員長

どうしたら良いと思いますか。どういうお考えをお持ちですか。

〇委員

20 年後は、全く人が仕事しない位色々なことがオートメーション化され、進化が激しくなると思います。ですので、人がつくるライブ的な観光資源の良さというか、伝説のようなものを伝えていきたいと今は思っています。ですから、基本的に文化・観光・産業は全部一緒のものだと思っていますから、そのような点で台東区の持ち味をはっきり決めてもらって、どのような対策を練るかです。言語などで対応しているだけでは付いていけないところです。

〇委員長

お客の数自体はもう求めないということでよろしいですか。

〇委員

何を求めて来ているかということを調査してということです。ただ賑わいだけでしたら、全く意味が違います。

〇委員

先ほど冒頭でお話ししたとおり、色々なデータは集められるわけで、その分析は絶対必要だと思います。

〇委員長

今来ている人たちが何を求めているのか、これは平成 16 年からの取り組みの中で、ニー

ズを分析する観光統計はもう行われているということですね。

〇委員

出てくるデータの質が今と昔は全然違うわけで、今は何を求めてきたかということがかなり明確につかめます。民間企業は、どこの国の人が何をしに来た、どの辺を回っている、など全てデータを持っています。そのようなものはいち早く入手して分析するべきだと思います。かなり詳しく載っています。

〇委員長

うまく使いこなせると、面白い結果が出るのかもしれません。

〇委員

短期、中期、長期と我々も計画しながらやっています。短期的にやっていることで、冬のイルミネーションは評判良かったので、無理やり今月いっぱいまで延長してもらっていて、営業時間を２２時までにしてもらいました。仲見世にももっと長くやれないかといつも言っているのですが、これは浅草寺の関係でできません。外国人観光客は、３泊４日など限られた時間しか来られません。限られた時間の中で、見たい、遊びたい、楽しみたいと思いますが、特に台東区で味わいたいのは体感、体験型です。前は爆買いでしたが、今は完全に体験型になっていて、浅草や上野、谷中の持ち味、日本の文化、生活感を感じられるようなライブ感のある場所、それを味わいに来ています。そのようなことを短期で改善しながらやっているところです。博物館にも働きかけて、今は夜間やるようになりました。金曜日の夜８時までやっています。そのようなことを現在は対応しています。

〇委員長

ありがとうございます。混雑、集中を解消する方策としては、夜まで時間を延ばして時間的に分散を図るというのは一つあります。

〇委員

その話ですが、博物館や美術館では整理券の対応をしました。動物園でも同じことをやっていますが、分散して２時間後に来てくれ、１５時に来た人は１７時に来てくれとしていまして、その間に買い物などをするわけです。一石二鳥のようなことを今短期的にしています。

〇委員長

黙っていても人は増えてくるだろう、しかし来た人がやはり満足して帰ってもらえるようにするためには、受け入れ体制、時間を延長したり整理券を発券したりといった仕組みをつくって、人が増えても皆が体験の質を上げて帰ってもらえる、そのような方向ということ

でよろしいですか。

〇委員

観光の対象によって方策は色々変わると思います。ですから、今のような整理券で整理する、それから今年浅草でやろうとしているのは、桜の時期の花見が隅田公園も人がめいっぱい入ってきて人混みになってしまいますので、船から花見をしてもらうということです。船に乗って隅田川を行ったり来たりして、台東区側も墨田区側も、あるいは江東区のほうまで足を伸ばしてというようなことをすることによって、公園の中にたくさんいすぎる人たちを分散させることがあります。それから、スカイツリーも、実は台東区側から見た景色のほうが良いので、今度観光センターでスカイツリーのエレベーターの予約券を買えるようになりました。そうすると、何時に乗れば良いか決まりますので、それまでの間ゆっくりこちらで遊んでいただく、それで時間間際に向こうへ行ってスカイツリーに上るというようなことも分散化につながると思います。そのように、対象によっていろいろ使い分ける必要があろうかと思います。

〇委員長

全体的な方向としては、人がたくさん来るけれども、その人たちが満足して帰ってもらえるような色々な仕組みを考えていきましょう、ということは方向性として言えます。

〇委員

去年主催した講演会の中で聞いて一番印象に残ったのは、欧米人、特にフランス人に関していえば、上野に来てどこに行きたいかというと、谷中だそうです。谷中というのは谷中地域、要するに墓地です。日本人のスピリチュアルが眠るところを見てみたいというような言い方をするそうです。これは一つの観光地になるという気がしました。きちんと時代背景から、この人が生きた時代はこうで、このようなことをこの人はやったのだというようなきちんとした看板のようなものを付けるということで、随分変わってくるのかという気がします。現在谷中墓地は実際の観光地にはなっていませんが、あまり観光地化して人が歩くと、そこに眠っている方々も含めて、親族の方々などあまり喜ばないのでしょうが、そのような方向性もあるという感じがしました。

〇委員

外国の方は、明治維新や大政奉還は知っていらっしゃるのでしょうか。歴史は政治学だといわれていますが、人の移り変わりで革新が起きた、時代の移り変わりのことを背景に出しています。それを知って来ているのであれば今増えている意味は分かります。

○委員長

谷中の墓地にしても、谷根千にしても、国立西洋美術館にしても、ずっとあったけれどもこれまであまり観光資源ではありませんでした。しかし、ある視点で見ると何か観光資源として面白いということでしょう。

○委員

観光は大きな意味での一産業と同じものだと思います。要するに、外国から人が来てお金を落としてくれないと意味がありません。ただ来ただけだと迷惑なのです。先ほどお話ししたとおり、人ばかりで、結局来て楽しみたい人が何もできずに帰るというのが迷惑なのです。ですから、やはり観光は来てお金を落としてもらう、それが目的だと思います。先ほどのスカイツリーのお話にしても、余った時間で買い物をしてもらいたい、食事をしてもらいたい、そのようなことができるような方策、分散してそこでお金が落ちていくというところがどうしても必要だと思います。

○委員長

最終的なところはそこだと思いますが、それが表に出てしまうと良くないところがあります。何かを求めてわざわざ外国から来るわけですから、その人たちにどのようなものを提供したら良いのか、魅力の部分が最初にあって、結果として結果が落ちるということだと思います。

○委員

言い方が違っていたかもしれませんが、お金を使わせるのではなく、使わせて差し上げるのです。喜んで使わせて差し上げる、それが大事だと思います。

○委員

外国人のことばかり今話題になっていますが、大変なことが上野で起きています。２月１日からシャンシャンの一般公開、抽選なしの公開です。これに対する警備体制は大変だと思います。受け入れる場合には本当にいろいろなファクターがあって大変です。

○委員長

台東区には色々なイベントが集中しています。この集中をいかにさばくか、これをどのようにうまく生かしていくかというようなマネジメントの能力を磨くというのが、台東区にとって必要です。次々に新しい人が集まるものが出てくると思います。これをうまくさばく、マネジメントする能力が台東区の観光には必要なのかと思います。

○委員

23 区で一番小さい区ですが、圧倒的に観光集客能力はあります。交通整理も含めてトータルで考えていかないと、今後大勢の観光客が来たときには不安です。

○委員

私は観光が大好きな人間です。観光地の中で、人の流れが一番激しいところは恐らく大阪難波ではないかと思います。私も委員がおっしゃったような「人が集まるから集まる」というミーハーです。大阪難波に来ている観光客の９割方が中国人と韓国人ですので、難波のど真ん中にあるホテルでの朝食はほとんど中国人という感じです。私の場合は観光ですから、難波でなければ食べられないような店に行くのですが、そのようなところに中国人はあまりいません。一番混んでいるのはドン・キホーテなどのチェーン店で、中国でも買えるものを日本で買うのが好きなようです。そして、少し足を延ばして高野山辺りに行くと、もう中国人の観光客は全くいません。世界文化遺産でもあるので、フランスやイタリアなどヨーロッパの人たちは結構いますが、宝物館に行くともうほとんどいません。日本人も少ないです。文化に触れたい、歴史に触れたいというお客さんはまだ少なくて、そのような方を上野でも浅草でも増やしていけるようにすると良いと思います。

すごい人ですから、パトロールの人が朝早くから大勢いて、そのような体制を整えるのも大変でしょう。また、ごみやたばこのポイ捨てが結構ありますので、その防止対策も非常に力を入れなければなりません。恐らく大阪難波のようなことが、いずれアメ横だけではなく、上野や浅草などでも生じてくるので、その中でドン・キホーテだけにお客が行くというようなことではなく、やはり地場の商店を利用していただけるよう、魅力を高めていくことが非常に重要だと思います。

○委員長

関西は LCC がたくさん入っていて、特に多いようです。ただ 20 年も先のことになると、もう中国のほうがはるかに豊かな国になっていて、日本人が行けないようなところに行っているのではないでしょうか。その頃になるとインド辺りの人がそのようなところに来ているというように変わってくると思います。

○委員

産業でもそうですが、20 年後は更に IT 化が進むわけであって、先ほどの整理券を配るというのは、おそらく予約システムに変わっているわけです。それを民間それぞれの施設ばらばらで仕組みをつくっていくのか、あるいは台東区として積極的にシステムをサポートして活用しやすいものをつくっていくのか。今観光課でかなりの情報をネットワークに載せているのですが、ほとんど見られない、見られているのかも分かりません。将来は、語種は全く関係なくて、自動翻訳でどんどんできるようになるわけですから、やはり観光のインフ

ラということを考えると、情報化、IT 社会、AI も含めてどう変わるのかということを想定してつくっていかなければいけないと思います。この方向性の中のどれにも関係するわけです。その辺を中心に次の段階に進めていくべきではないかと思います。

〇委員長

間違いなく大きく変わると思うので、キーワードとしてはぜひ入れておいていただきたいと思います。それでは先のほうに進んで、また後で総合的に振り返りたいと思います。

＜文化分野について＞

〇委員長

文化の分野にまいりたいと思います。お願いします。

〇委員

文化の分野については、以前の審議会から何度か発言していますが、一つは文化権についてです。これが日本で認識され始めたのはごく最近ですが、世界人権宣言にもうたわれている話ですから、それをきちんと保障していくことを浸透させる必要があります。

もう一つ、文化芸術基本法などにも書かれている文化の色々な公益的な機能だと、今議論してきた観光分野との関係で考えなければいけないところが非常に大きいと思います。多様性の理解や共生社会に対する理解を進めて、最後は世界平和を実現するというのが文化政策の目的です。それが文化芸術基本法に掲げられていますし、オリンピック憲章などでもそのような方向を目指しています。観光客の人たちがたくさん来て、お金を落としてくれるというのも目的の１つではありますが、文化政策的に見ると、それらは副産物です。本当に重要なのは、ここに来た人が日本の文化を理解し、また日本人が来た人たちの文化を理解し、相互理解をして、それで仲良くなって平和につながるというのが文化政策の目的です。来た人が日本を嫌いになることはまずいわけです。日本の特に浅草などに蓄積されている伝統的なものを見て、日本に対して憧れ、好意を持ってもらう、そのような状態をつくっていくことが重要だと思います。

先ほどの観光とも関係があるのですが、日本を訪れる人たちに対するきちんとしたマーケティングをやっていく必要があると思います。来る人たちを全部一緒にというのではなく、やはり色々な層がありますので、そこをセグメントしていく（同質のグループに分ける）ことです。日本にかなりの頻度で来て、日本文化のファンになっている人、理解者になっている人、例えばミュージアムなど年に３回ぐらい来るアジアのある程度の知識層の人たちなどをきちんとゲットしておいて、その人たちが例えば浅草でも伝統芸能を必ず鑑賞するなど、そのような層をきちんとつくって関係を築いていくことは、重要だと思います。

それから５年に一遍、10 年に一遍など、何か記念のときには日本に来たいという層もあると思います。それから一生に一回くらい、とにかく記念で行って、行ったら記念写真を撮ってお土産を買って帰るというような層など、きちんとターゲットを決めるべきだと思います。特に文化政策的に重要なのは日本の良き理解者になる人たちです。上野の美術館や劇場、浅草の伝統芸能、色々な伝統的な建築物などのリピーター、良き理解者になる、そのような人たちをきちんとつくっていくような仕組みが必要かと思います。多分パリでもニューヨークでもベルリンでも、そのような人たちをゲットしていると思います。それを東京でやるとすると、やはり上野、浅草でやるしかないと思います。今池袋も頑張っていますが、やはり上野と浅草だと思います。アジアの知識層の人たちのファンをきちんとゲットする拠点の機能を強めていくというのは、とても大事な 20 年後の姿なのではないかと思います。

○委員長

戦略的にアジアの高度な日本文化を理解する文化人とのネットワークのようなものですね。それは大変重要かと思います。東京都は考えているのでしょうか。

○委員

都の政策はその辺が少し弱いです。東京都もやはり広域自治体なので、何か打って出ようとした時に、もともと集積している台東区や港区、千代田区に重点投資するというのは、やりにくいです。だから台東区が「自らやります」と言えば、「では協力します」と都もなれます。都から、「ここを拠点にします」と言って上野を指差すことはやりにくいです。それは国が「東京重点でやります」と言えないのと同じで、都も「台東区中心でやります」とは言えません。台東区側から「東京の顔になります、日本の顔になります」と名乗り出れば、「都も国も協力します」となります。そのような姿勢で行くことが重要かと思います。

○委員

東京都が、オリンピックや、その後のことを考えても、お金の使い方を分散させてしまうとインパクトがなくなってしまいます。台東区で手を上げないといけないのだと思いますが、他のところになくて台東区にあるものが二つあります。山と川です。台東区だけではなく墨田区、江東区、中央区もあるといえばありますが、隅田川と上野の山。これは他にはありませんので、そのような切り口で手を挙げれば、相当説得力があると思います。

○委員

先ほど言いましたが、明治維新 150 年です。大きく日本が新時代に変化する流れの舞台がまさに、戊辰戦争の中の上野戦争です。そのことを言えば、ここにしか集中したものはありません。それをあまり主張してしまうと、台東区ばかりになりますが、でも台東区は東京の歴史の象徴であるし、日本の文化の大転換期の地であることは間違いありません。今のように山と川、これは台東区で持てる本当の持ち味、これだけのものがあるというのは大変なことだと思います。できるだけ PR していきます。

○委員長

そうであるからこそ、東京都もまだ持っていないような高度な戦略を持って、まず台東区から始めるというぐらいの気概を持ってぜひ進めていくべきでしょう。

○委員

台東区の構想ですから、あまり物分かり良過ぎてはいけなくて、やはり台東区を主張すべきだと思います。

〇委員

これまでお話ししてきたことの繰り返しになりますが、教育のところで子供だけではなく大人の教育も必要です。他文化理解をきちんと進めて、色々な人が来たときに、その人たちを差別したり拒絶したりするのではなく、きちんとそのような人たちと仲良くやっていくことが大事です。そのような住民づくり、区民づくりを、住んでいる人たちだけではなく、ここで働いている人なども含めて行い、学校教育だけでなく社会教育を含めてしっかりやるということが文化権の保障にもつながりますし、他文化理解、そして最後は世界平和にもつながるので、その教育プログラムを充実させることを、教育の分野と連携してしっかりやることが大事かと思います。

〇委員長

教育の分野、特に文化の面で、異文化、他文化を理解するということは、これから非常に大事かと思います。現実問題として、民泊をはじめとして、色々な問題が起きていて、もう外国人は要らないというような話になっています。もうそう言っている時代ではありませんから、いかにそのような人たちとうまくやっていくか、もっとお互いに文化を深く理解していく社会をどうつくっていくのかということは、それぞれ共通のこととして考えていく必要があります。

〇委員

その辺は台東区としていかがなのでしょうか。観光もそうですが、文化も台東区は他の区が羨む資源があって、あまりにも多過ぎるからどのように処理したら良いのか困ってしまいます。その豊富な資源を、発信ということがありましたが、これを内外にどうするかです。区民でもよく知らないことが多いです。上野の山についても、これがなぜここにあるのか、というのはよく知りません。それをいちいちパンフレットを見るかというと見ないわけで、浅草を教える寺子屋なども活用して広めていくようなことが重要なのかと思います。

〇委員

安全に関する内容は、環境分野に入ってくるのですか。例えば先ほど出た民泊の話にしても、民泊の目的が観光であれば良いのですが、そうではない危ない目的で泊まられているということもあり得るわけで、どこで安全ということが入ってくるのか、見当たらなかったものですから。

〇事務局

今回便宜的に分野ごとに区切らせていただいてしまっているので、分野でいうと防災・防犯の分野で安全、安心について扱っているということです。本グループではこちらには入っていないということです。

○委員

ではそのときに文化や観光の分野から、いわゆる観光客について、防災・防犯に関しても検討していただきたいと思います。

○委員

人が多過ぎた場合の安心、安全も担保されないといけません。

○事務局

観光客が今後も増加した場合に、どのように区として観光施策を検討していくのかについては、やはり区としても課題認識を持っています。

安全・安心については、当然観光客の安全・安心というところについても視点としては含まれていて、それは防災・防犯分野にこのような議論があったということは、第２グループのほうになりますが、まだ第２グループは３回目が残っていますので、各グループの議論の状況についてはそのグループにお伝えするようなかたちで今までもやらせていただいているところです。

○委員長

他によろしいですか。特に文化というのは観光とも非常に密接に関係していると書いてあります。つまり、都市観光はほとんど文化観光そのものです。さらに一体性を高めるような施策があって良いかと思っています。

＜環境分野について＞

〇委員長

続きまして環境分野です。この間私が景観のことをお聞きしたら、景観は都市計画、まちづくり分野で扱うということでした。緑地や緑というような部分についてはここですか。

〇事務局

花やみどりなどの自然環境については環境分野で対応するかたちになります。ただ、当然景観ともかぶってきますので、そのようなご意見をいただければ、まちづくり分野にはこのようなご意見があったという旨はお伝えさせていただいて、議論の参考にさせていただきたいと思っています。

〇委員長

ヨーロッパの川や運河などに行きますと、川に花が飾ってあったり、護岸を緑化したりというようなことがあって、全部建築や土木的に直していくのは時間がかかるのですが、急ぐのであれば緑化のほうがある程度オリンピックまででも間に合うのかという感じがします。

〇委員

これは今すぐにというわけにはいかないことですが、区と都と国でもう少し協議をしていただいて、川の管理体制をもう少し簡単なものにしていただきたいです。というのは、ここからここは国、ここは都、ここからここは区という入り組んだところが隅田川にはたくさんあります。そうすると、何かやろうと思っても、国と都と区と全部協議をして、許可を取って、一つが駄目となると全部駄目になってしまうというようなことがあります。ですから、国だけお願いしたらできるなど、何とか整理していただくような方向を将来的には努力していただきたいと思います。

〇委員長

具体的に何か問題に遭遇されたのですか。

〇委員

よくあるのですが、例えば先ほどお話しした桜の時期にライトアップをしたいというと、「ここは区の公園課の範囲で許可できます、でもここから先は国のほうの許可をもらってください」となると結局できないということになってしまいます。そのような事例が幾つかあります。それをかいくぐってやるようにしているのですが、なるべくその辺は同じ地続きのところは同じ行政で認可していただけるような体制に、双方で話し合ってしていただければと思います。

○委員長

ちょうど桜の花見、あるいは緑化で、この環境分野に重なるところの良い例が出てきたと思います。その辺のいろいろな管理区域、皆それぞれ担当が違うところを、ぜひ何とか解決していただきたいと思います。

○事務局

今の委員からのご要望については、事務手続きの問題がかなり多いですので、河川を所管している都市づくり部にこのような要望があった旨はお伝えさせていただきたいと思います。

○委員

資料４に「②花やみどりなど自然環境の創出と保全」と書いてあります。台東区は面積が決まっていて、緑地も決まっていて、それをどのように創出するのかということは、今委員長がおっしゃったように、やはり後ろ側が大事だと思います。要するにスカイツリーから見て皆後ろしか見えないわけですから、そのような意味で重点的に台東区は後ろ側をきれいにしていく施策もあると思います。それを構造上で変えるというのはお金もかかり個人の問題もありますが、花やみどりで後ろのバックヤードをきれいにするというような施策はあり得るのではないかと思います。

○委員長

この自然環境の創出、「花やみどりなど自然環境の創出と保全」と書いてありますが、もう少し具体的に、例えば屋上などの緑化をする、屋上などを使った都市農業的なこと、最近は野菜工場のようなものがありますので、屋上などで観光農園的なことをする、緑化することによって、市民がそこで観光的な体験をすると同時に、都市のヒートアイランド現象を緩和するというようなことなどあると、未来的かなと思います。

○委員

スカイツリーから見えるのは屋上も見えるわけですから、屋上も緑化したらきれいになります。

○委員

屋上の緑化や壁面の緑化の話ですが、台東区はその面では公共施設においてはかなり早くからやっていると思います。この屋上もそうですが、小中学校の屋上などでも、ほとんどやっています。問題は民間の家庭や事業所の緑化をどう推進するかということだと思います。なかなかお金もかかる話で、事業所がすぐやれるか、屋上緑化で重みがかかりますので、建物が持つかなども問題になるかと思います。

秋に開催された台東区の環境フェスタを見ました。そこで、集合住宅などの居住者にも簡

単なクイズに答えてもらって、花や種を差し上げていました。それから、これはあまり他の自治体はやっていないのですが、いらなくなった植木鉢の土を、そのフェスタのときに持参すると、その場で業者のほうに依頼してリサイクルをして、そのリサイクルされた土を無料で区民に差し上げて、「また花を植えてください」という案内をしていました。

また別のことなのですが、全体として環境保全の推進というときに、経済的な手法あるいはプログラムの活用にもっと将来的には力を入れると良いと思います。もちろん区民の皆さんの理解と協力がないといけないわけですが、経済的手法は、かなり環境保全効果が高いと思います。一例を挙げると、レジ袋の削減です。小売店と連携しながらレジ袋を削減する、マイバッグを持参してもらうなど、いろいろ啓発的な手法がこれまで主流だったのですが、最近はレジ袋の有料化を事業者や市民と協力して実施する自治体が増えてきています。有料化すると全然効果が違ってきます。エコバッグを差し上げる、あるいはポイント制度などの古くからのやり方ですと、大体 20～30 パーセント位のレジ袋削減効果しかありません。これが、まち全体で主だった事業者に参加していただいて、「レジ袋無料配布中止協定」など結ぶと、80～90 パーセント位に効果が高まります。そして消費者からの反対はほとんどありません。マイバッグを持っていく、あるいは一度買ったレジ袋をまたポケットにしのばせて買い物すれば良い話であって、それほど消費者にも不便はありません。

それから家庭ごみは無料で排出されており、その処理コストについて全く思い至らないわけです。処理コストの１割でも２割でも良いと思うのですが、一部有料化することで、可燃ごみを約２割削減できるという効果が出ていますので、そのようなことも真剣に検討していただくと良いかと思います。

○委員

20 年後までこの環境分野はなかなか思い至らないのですけれども、今資料に欠けている視点として、官民連携という視点があるかと思います。これまでも、例えば、たばこのところであれば JT（日本たばこ産業株式会社）さんと連携したり、民間で大江戸清掃隊があったり、それから町会で資源回収を実施したりするなど、連携してやっているのですが、今後もより進めていくべきではないか、そこを明記したほうが良いかと思いました。先ほどごみにお金がどれくらいかかっているかという話もありましたが、官民連携の一つの手段として、オープンデータをさらに進めていく必要があります。ごみがどのようになるのか、ごみ出しの分別や、オープンデータを使ったアプリなどもあります。

それから、海外の事例として、公園の整備を任せる代わりに、公園のベンチに企業名を入れて良い、稼ぐ代わりに整備をしてほしい、ごみ拾いを含めて環境を整備してほしい、という官民連携があります。稼ぐ公共というようなところともつながってくるのかと思います。

○委員

今台東区内はホテルがどんどん増えてきて、駐車場がどんどん減っています。駐車場料金

の月額が値上がりしている状況があります。しかし、車は多分この20年のうちに自動化されていくと思います。場合によっては空を飛んでしまうかもしれません。そうすると、今は運転者がそこに駐車して出てくるというものが、そうではなく勝手に車が出て行って、勝手に駐車して、「迎えに来い」と言えば迎えにくるようなものになってくると、駐車場の在り方も随分変わるだろうと思います。場合によっては屋上に駐車場をつくって、空を飛んで行ってしまうかもしれません。現在、一番環境に影響を及ぼすのは車だと思います。以前と比較して燃費が３倍になったため、ガソリンスタンドの数が３分の１に減っています。恐らく車の開発によって随分環境は変わってくるのだろうと思います。その辺を十分に認識して、今は空いている空き地にどんどん駐車場があって、ビルが建つとなくなるというような状況ですが、その辺は20年というスパンであると、十分考えておかなければいけないと思います。

○委員

駐車場の形態として、上野中央通りの地下駐車場はパレット式ですが、そのようなものは使えなくなってくるのでしょうか。

○委員長

使えるのではないでしょうか。

緑化について、台東区は屋上緑化などについては先進的です。そのようなものはもう少し強調しても良いと思いますし、さらに推進すれば良いと思います。それから、これは具体的な場所はなかなか言えないのですが、森をつくることを考えても良いのかと思います。つまり、都市計画と一体になって、高層化したら公開緑地のようなところに意図して森をつくるということです。今大手町の駅からすぐのところに「大手町の森」という4,000㎡の森をつくっています。そのような環境があるからこそ、アマン東京という世界でも一番のラグジュアリーホテルが立地したり、近くには「星のや東京」という高級旅館もできたりしています。都市の中に緑を持ち込むという大きな戦略の中でそのようなものも出てきているのかと思います。緑化率が非常に低いということが指摘されていますので、今後都市計画で再開発、高層化するときに、象徴的な意味も含めてこの森づくりをする、そのような戦略もまちづくり分野と一緒に考えなければいけないかと思います。地価が高いので、やたらに公園をつくるのは難しいかもしれませんが、そのときは垂直緑化といいますか、壁面を緑化して、目に入る緑を増やしていくなど新しい色々な手法もあります。そのようなものを戦略的に入れて推進していく方向があっても良いかと思います。

○委員

外国に住んでいる日本人が、東京のごみの出し方に感激し、外国でレポートを出したところ、賞を取ったという話を聞きました。その話を聞いて、20年先ではなく、20年前のごみ

の出し方がどうだったかを考えてみました。20 年前は今のように細かく分類されていなくて、今のように燃えるごみ、燃えないごみに分けて、リサイクルできるもの分けてというやり方はなかったと思います。自然に、今の時代に合った形に良くなってきていることが改めて分かりました。

それから、台東区の歩道は狭いですが、道路側の緑がもう少し増えると良いと思います。台東区は緑の面積が少ないと書いてあります。狭い台東区なのに緑が少ないということは、もう少し考えて緑を増やすべきなのかと思います。道を歩いていても、歩道と道路の緑を結構植え替えていたりするのを見るのですが、すぐ枯れてきたりして、緑が減ってしまっているのかと思います。整備の仕方、日の当たる場所に緑を植えるなど、そのようなことを考えるべきかと思いました。

また、一部の道路に「歩きスマホ禁止」、「歩きたばこ禁止」と貼ってある場所があります。あれは、どのような場所に付けたのですか。もう少し PR すると良いと思います。

○環境課長

基本的に駅周辺や繁華街などのポイ捨てが多いところ、それから歩きスマホ等でそのようなことを目指すところに貼っています。ご要望があれば、貼ることは可能かと思います。

○委員

貼ってあっても、歩きながらたばこを吸っている人もいますが、目のつくところにたくさん貼れば、影響が結構あるかと思いました。子供が歩いているのに、たばこを持って歩いていると、とても危ないと思うことがあります。効果はゼロではないと思うので、もう少し増やしても良いかという気もしました。

＜全体について＞

○委員長

それでは、まだ多少時間がありますので、全体で何か言い残したことがあればご発言をいただきたいと思います。

○委員

産業分野の５項に「⑤国内外への台東区ブランドの魅力発信」と書いてあります。「台東区ブランド」が良いのか、「台東ブランド」が良いのかは別として、「台東ブランド」は観光資源や文化資源もまさにそのブランドを構築するための重要な資源になると思います。ですので、ここで産業のところに入れておくと、非常にファッション化されたブランドになってしまうのではないかと思います。「台東区ブランド」というと、極端なことを言うと、「もう浅草と上野があるのだから、台東なんていいんだ」という議論もあるので、そのような意味で台東というブランドを確立していくということがここに入るのか、産業の問題だけではないのではないかと思っています。

○産業振興課長

台東区ブランド、ものづくりのまち、地域全体を台東区として売り出していこうということで、「台東区ブランド」とあえて言わせていただいて、実はこれは言葉もそうですけれども、これからますますこれをどう育てていくのかというようなところも重要なポイントだと思っています。したがって、今委員がおっしゃったような視点も今後は重要になってくるのだろうと思います。台東区というよりも、上野、浅草といったほうが海外の方についてはもうおのずと分かる立派なブランドだろうと思っています。あるいは浅草という言葉で、北部方面に行けば靴の産業が集積している、浅草靴というとまさにそれがブランド価値として定着しているという状況もあります。ただ一方で、台東区というのは上野と浅草両面を持ち、あるいは谷中もあり、それからまた玩具人形のある浅草橋もあり、今言った北部の靴産業のまち、このような状況を知らない方々も非常に多いです。そのような知らない方々に対して、上野も浅草も様々な面を持っているのが台東区のブランドであるといったような視点で育てていこうということも重要なのだろうと思います。これは委員がおっしゃったように、これから産業のみならず、観光、文化を含めて、やはり協議をしながら育てていかなければいけないのだろうと思っています。

○委員

なぜ申し上げたかというと、今後産業や文化、観光というものの融合、一体的な施策が必要となってくるときに、「台東区ブランド」というものが非常に重要になってくるのかと思っています。そのような意味で、産業だけのブランド構築という意味ではなく、観光と連携

してそこで生まれる台東区の魅力をブランド化していくというようなことですので、よろしくお願いします。

〇委員

今の話は、文化・観光・産業全部トータルで台東区の魅力という話だと思います。

観光分野における検討シートの中で、国と都の観光客数のデータがありますが、28 年度のデータですが、29 年の直近のデータは出ないのですか。

〇委員長

まだ正式には発表されていないです。暫定値では 2,800 万を超えたというくらいで発表されています。

〇文化振興課長

速報値で 2,800 万人を超えたということです。

〇委員

速報値ということですね。ちなみに台東区のデータはどこに書いてありますか。

〇文化振興課長

台東区は 30 年に調査を行うことになりますので、直近はこの 28 年度が最新のものになります。

〇委員

環境分野の緑化のところで、お話があったのかもしれませんが、緑被率が 23 区で低い順位になっているということなのですが、何番目ぐらいですか。

〇環境課長

今資料が手元にないので、後ほどでよろしいでしょうか。

〇委員

かなり後ろなのですね。上野があって、隅田公園があって、お寺がたくさんあって、皆それなりに木が生えていて、なぜそれほど低いのかと思います。

〇委員

みどり率になると、不忍池なども含まれるので少し上がります。

○委員

千代田区は皇居があるから高いだろうというのは容易に分かります。

できる限り緑が多いほうが良いに決まっていると思いますが、それほどでもないのに無理やり広げていって、他に使い道あるところを緑にしてしまうということになってくると怖いという気がしました。

○委員

環境面では良し悪しです。樹木があるために、それを移設するなどの工事があります。例えば上野公園の公園改札口の前です。緑を減らすな、切るなという反対運動があります。私は逆の立場で、周辺を整備していく、移設するなど、そのような問題もあります。全てが全て、緑が多くなれば良いという今、こうやって交通面も狭くなって困っているのに、人があふれている前の横断歩道を取り除いて、直接つなげようという話をしています。それに対して緑を動かすな、減らすなという話が先行していくと、あまりそれを言われると、都市づくりの環境整備のほうからすると困る問題です。

○委員長

その辺は総合的に考えていく必要がありますね。

観光について少し申し上げたいのですが、資料２の区の抱える課題のところで、「誘客が必要である」、「誘致を進める取り組みが必要である」、という言い方になっているところがとても多いです。人がたくさん来てお金が落ちるということが大きな課題として書いてあるのですが、私は一番大事なのは台東区の観光の魅力が高まって、それで人が来る、結果としてお金が落ちて経済活動が活発になるということで、何が大事かというと、観光資源の創出、新しく資源をつくっていく、見つけていく、育てていく、これが大事かと思っています。課題解決に向けた施策の方向性（案）は、②に「多面的な観光魅力の創出と磨き上げ」と書かれていますので良いのですが、それに対応するものとして、いわゆる観光資源というものを、いろいろな視点から新たに生み出していくということがやはり大事なのかと思っています。具体的に言えば、先ほども申し上げましたが、水辺の魅力、あるいはいろいろな問屋さんの集積のようなものが面白い、谷根千のようなところは昔 30 年ぐらい前にはなかったものですが、今は谷根千のようなものがあるので、台東区の観光には広がりや奥行きが感じられるのかと思います。これからも、今観光資源でなかったものを、どのような視点で捉えたら面白く見えるのか、そのような意味での観光資源の創出、発見、発掘、育成が必要なのかと思っています。ぜひ課題のところにもそのような視点の言葉を入れていただきたいと思います。

○事務局

このシート自体は、このシートの完成を目指しているわけではないですので、今いただい

たご意見については、今後の課題として入れさせていただきたいと思っています。

〇環境課長

緑被率の数字がありました。申し訳ありませんでした。台東区は23区中下から4番目です。多いところは練馬区、世田谷区、渋谷区です。確かに台東区は上野公園、隅田公園がありますが、練馬区であると光が丘公園、それから石神井公園など、非常に大きな公園があります。世田谷区も砧公園や駒沢オリンピック公園、馬事公苑、渋谷区は代々木公園や新宿御苑、明治神宮などがあります。

〇委員

適正な比率というのは何かデータはあるのですか。

〇環境課長

比率については、緑被率の調査をしているのですが、調査の仕方は区によって異なる部分もあり、一概に正確とは言えませんが、全体的に見ると、やはり下のほうの順位だということになります。

〇委員

無造作というか無意味に緑地が多い区と、意味のある、施設として十分活用されている、それからよく人が見ている、景観的に感じている、体感するなど、そのような意味でいう重要度かというと違いますよね。

〇委員長

多分緑被率は空から見て、空中写真を撮ってカウントするのだと思います。それに対して、緑視率というものがあります。つまり地面に立った人間から見てどれぐらい緑が見えるかということであると、垂直緑化をすると空から見るとほとんど反映されません。垂直の壁を緑化しても、空から見ると緑被率にはあまり反映されませんが、緑視率という人間の目に入る緑という意味では、今度は大きく反映されます。

〇委員

ちなみに、台東区より下が荒川区で、その次が墨田区で、最後が中央区です。

〇委員長

緑被率で今議論していますが、これを上げるのはなかなか難しいので、では台東区はどうしたら良いのかという方向で議論をしたらどうかと思います。

〇委員

それは緑被率もさることながら、水辺率もぜひ統計的に出していただくといいと思います。

〇委員

ただ昔からいわれていますが、上野の山などは環境的にはうっそうとした森ということで、夜などは非常に怖いです。アベックが通れない、一人で歩けない、森としてあって緑は多いですが、環境的な面で先ほどの視点から言うと、あまり良いかどうか分かりません。それを少し明るくするということを今やっています。そのような視点が幾つもあります。それほどこだわらなくても良いと思います。

〇委員長

そうですね。今一つの指標として、地表面が覆われている比率は 23 区の中で下から数えたほうが早いけれども、水辺や目に入る緑や人間の生活の中で触れ合う緑を増やしていきましょうという方針を立てて、いろいろ他の指標もつくる、あるいはそのような施策を考えていけば良いかと思います。

〇委員

ちなみに緑被率で１位は練馬区、板橋区辺りですか。

〇環境課長

１位は練馬区です。

〇委員

練馬区、世田谷区、杉並区、渋谷区、港区、千代田区、大田区、北区、文京区、新宿区、目黒区、江東区、中野区、足立区、江戸川区、葛飾区の順番です。

〇委員長

他にありますか。

〇委員

観光招致は良いのですが、課題として今後増えていく外国人観光客を、どのように受け入れていくのかということがあると思います。外国人の言語対応、観光案内、交通など色々対応があると思います。20 年後を考えてどのように交通機関が変わっているか予想が立たないですが、それに対する台東区の受け入れ、その点をもう少し重要視してやっていただければと思います。

○委員長

前も議論が出ましたが、確かにそのとおりだと思います。

○委員

今急激に増えているのがムスリムの人たちです。あの方たちは、定期的にお祈りをしなくてはならなくて、その場所が必要だというので、あの方たちが来るからには用意するというのは義務のような感じになっています。やはりいつも言うことですが、観光と宗教はどうしても切り離すことができません。そもそもお伊勢参りが観光の始まりのようなものです。そのようなことを考えると、自分の国の宗教もさることながら、他宗教のことも考慮するということはどうしても必要になってくるのではないかと思います。

○委員長

ありがとうございます。その辺も最初に出ました他文化の理解というところに大きくは含まれているかと思います。

○委員

東京ミッドタウンなどはお祈りをする部屋をつくられていますね。

○委員

２点ほどありまして、産業分野で逆にこの課題にあるところが、20 年後にはもう課題にしなくても良いのではないかというところも、私自身は思うところがあります。地場産業を 20 年後本当に促進していかなければいけないのか、台東区としてはやはり「台東区ブランド」と言いたい気持ちは分かります。しかし、買う側としてはタオルであれば「今治タオル」などのブランドがありますが、「台東区ブランドと言われても」と思うところがある気がします。では人形であれば「浅草橋ブランド」なのか、靴であれば浅草なのか分からないですが、個別のブランドは分かるとしても、そもそも地場産業だから発展させなければいけないのか、20 年後にどうあるべきなのかというところは、念頭に置かなければいけないのかと思います。

もう一つ文化分野のところで、守っていかなければいけない文化、昔からの文化伝統というものはあるものの、一方で伝統や文化は変わっていくものでもあると思います。「歴史をつぎて新しく」という台東区の歌にもありますけれども、徐々に変わりながら、適応しながら文化が伝わっていくというようなところもあると思うので、そこの切り分けは多分しなければいけないです。例えば着物は私も好きで、新年会などでは着ることもありますが、好きといっても初心者ですから着るのに気合が要るわけです。着終わった後に干しておかなければいけない、手入れも難しい、お金がかかるなど、そのようなさまざまなハードルを乗り越えなければいけません。着付けの仕方、帯と着物の合わせ方、色合わせ、季節のものな

ど、本当にルールが細かくて、それがすてきな部分でもあり、大変な部分でもあります。観光客の方は、今は浴衣のような感じで、着物を半幅帯で着られています。あれも見ると「どうなんだろう」と思う一方で、文化を楽しむという意味では、手軽に着付けられて、そのような日本文化を体験できるという意味ではきっと良いことなので、その辺の切り分けもしつつ、現代に適応していく文化の在り方のようなところも、区としてサポートしていければ本当は良いのかと思います。

○委員

民泊は３種類あります。常駐している管理者が住んでいるところ、通っているところ、いないところです。この「いないところ」が怖いです。今はそれで皆ルール化して、３本でまとめようとしているのですが、目標の条件を付けておいて、こちらに近付ける、誰かしら責任者が近くにいるというのは努力してくれというようなことにしないといけないと言っているのですが、いなくても良いのです。

○委員長

そうですね。一応国のガイドラインがあります。

○事務局

民泊について今ちょうどテーマに上がりましたので私のほうから申し上げます。今区では区の考え方を整理してパブリックコメントをかけているところです。簡単に言いますと、家主がいる民泊、それから管理者が常駐している民泊については、法律の上限までやっていただいて結構というかたちにはしています。ただ、管理者がいないというところについては、駆けつける義務を課すというかたち、かつ区内全域で営業する際は土曜日曜だけの利用というかたちに制限をかけさせていただいています。大ざっぱですが一応そのようなルールです。そうすると法律上限は 180 日泊できますが、規制をかけるとカレンダーによって若干日付がずれますので、130 日前後ぐらいの日数に制限されるというようなかたちで、今パブリックコメントをかけさせていただいて、今後区議会に条例案を出させていただくというような流れに今なっているところです。

○委員長

家主がいない民泊については、都内でも一番厳しいほうになります。

それではだいぶ時間が過ぎてしまいましたが、これで本日の議事を終了したいと思います。それでは事務局からお願いします。

３．その他

〇事務局

―次回の小委員会についての説明―

４．閉会

〇委員長

どうもありがとうございました。それでは他にないようでしたら、これで第２回台東区基本構想策定審議会小委員会第３グループを閉会します。本日は長い間どうもありがとうございました。

（午前１２時００分閉会）

以上